

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 福岡県 】

学校名【 福岡県立特別支援学校「北九州高等学園」 】

1 実践テーマ	①・Ⅱ・③・Ⅳ・⑤（複数選択可）
2 実施対象者 （学年・人数）	第1学年生徒 51名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名（ 保健体育 ）</p> <p>② 行事名（ パラリンピアン講演会 ）</p>
4 目標 （ねらい）	<ul style="list-style-type: none"> ・パラリンピックや障がい者スポーツに対する関心を高める。 ・生涯にわたってスポーツに親しむ心を育てる。 ・障がい者スポーツの競技に触れ、アスリートを身近に感じ、競技力の向上を目指す機会とする。
5 取組内容	<p>1 パラリンピックの映像視聴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講師の古川氏のパラリンピック2020東京大会に出場した時の試合の映像を流し、活躍する場面をとおして共感できるようにした。 <p>2 講演1「パラリンピックに出場して」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卓球を始めた動機やパラリンピックを目指すようになった背景等について、話をしていただいた。 <p>3 講演2「これまでの生活を通して」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知的障がいのある本校の生徒に対して、自分が知的障がいがあると診断されてからこれまでの生活を振り返り、自分の経験談と母親やコーチとの関わりについて話をしていただいた。 ・質疑応答では、事前アンケートに対して答えを準備していただき、丁寧に答えていただいた。また、当日の生徒からの質問にも、自分の考え方として丁寧に分かりやすく話をしていただいた。



4 模範演技「練習の場面の演技」

・競技として卓球をされている方を目の前で見る生徒たちは、驚きを隠すことができず、歓声が上がり興奮している様子だった。はじめは、正確なストロークに感心していたが、早いリズムでの練習場面になると、驚いた様子でざわついていった。

・パラリンピアン動きを間近で見る経験は、生徒たちにとって新鮮なものであり、この経験を通して将来の競技スポーツに関わるきっかけになればよいと思われた。



5 試合「代表生徒とのゲーム」

・本校卓球部の生徒2名が代表として3セットマッチのゲームを行った。大勢の生徒がいる中で、いつもの練習の場面では見せないような表情で真剣に取り組む姿は感動を誘うものであった。コロナウイルス感染症の関係で、昨年度から公式戦等が実施されておらず、大会に出場したいという思いの強かった生徒にとっては絶好の機会であった。

・古川さんに真剣に挑戦する姿は他の生徒に刺激を与え、観ている生徒たちから自然発生的に代表生徒を一生懸命に応援する姿が見られ、体育館が一体感のある雰囲気となった。

・代表生徒による謝辞では、忙しい中本校に来ていた開いたことに対する感謝も気持ち、パラリンピックで古川さんが活躍する姿を見て感動したこと。古川さんがパラリンピックパリ大会に向けて活動を始めていることを知り、応援する気持ちを立派に伝えてくれました。

6 写真撮影

・パラリンピックで着用した、日本代表のジャージを着た古川さんとコーチの方と一緒にクラス単位で記念写真の撮影を行った。パラリンピックを身近に感じられた時間となった。



6 主な成果

成果としては、パラリンピアンを招聘したことにより、テレビで観戦したオリンピック・パラリンピック2020東京大会を身近に感じることができたことである。また、日本代表として活躍する選手と交流を行うことにより、競技スポーツに対して興味を高めることができた。

また、同じ障がいのある方が、身近で活躍していることを知ることで、私も挑戦をしてみたいという思いを持った生徒がいたことも、大きな成果となった。

代表生徒の試合では、応援をしている生徒が一生懸命に大きな声援を送り、その中で対戦した生徒が幸せに感じることができた。このことが、競技者と観戦者一体感を共有できるスポーツの魅力であるということを体感でき、とても良い事業になった。

<p>7 実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>講師の方は、このような事業に初めて関わるということだったので、事前打ち合わせを複数回行い、学校の希望と講師の方の思いをくみ取り内容の検討を重ねた。知的障がいのある方を講師に招いたので、講師の方に過度な負担がかからないように、事業内容や時間配分についても協議を重ねた。また、コーチの方の理解があり、講師への助言や当日の支援も丁寧に頂くことができ感謝している。</p> <p>講演時には、パラリンピックに出場した時のユニフォームの着用を依頼したが、快く引き受けただけとともに、スポンサーの条件等について丁寧に説明して下さるなど、本校の要望を受け入れながら適切な対応をいただいたことはよかった。また、本校の生徒との交流は「貴重な経験をさせていただき感謝している」という言葉をいただきことができ、本事業に関わっていただきよかったと考える。</p> <p>また、卓球の試合をした代表生徒には的確な助言をしていただくとともに、高い評価をしていただき「一緒に活動してみないか」と誘いの言葉をかけていただいた。対象の生徒は喜ぶとともに、講師の古川さんとともに活動したいと意思表示をしているので、学校としてもサポートをしていきたいと考えている。</p>
<p>8 主な課題等</p>	<p>今回のようなパラアスリートを近隣で探すことが難しいということである。福岡県出身のパラリンピアンは複数いるが、福岡在住の方が少ない状況がある。今回は、偶然にも生徒と同じ障がいのあるアスリートとつながったので幸いだったと考える。</p> <p>また、特別支援学校においては、同じ障がいのある方を講師として招くことにより、生徒が身近に感じ、モデルとしてとらえることも大切な要素になるので、講師の選定には課題が残る。</p> <p>今後も継続して交流を重ねていきたいと考えるが、学校では予算の調整が難しいので、どのような形式で交流（活動）を継続していけるのか検討が必要である。</p>
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<p>今回招聘した講師とコーチの方と連携をとり、卓球部の活動を通して継続した活動を行っていきたい。また、卓球クラブと学校との連携についても可能な方策について協議していく。</p>

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 福岡県 】

学校名【 福岡県立特別支援学校「北九州高等学園」 】

1 実践テーマ	①・II・③・IV・⑤(複数選択可)
2 実施対象者 (学年・人数)	第1学年生徒 51名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (保健体育) ② 行事名 (パラリンピックの種目に挑戦しよう)
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・パラリンピックの種目に触れ楽しむことができる。 ・障がいの有無にかかわらず、楽しく活動できる種目を知る。 ・チームで協同し、戦術や技術について話し合うことができる。
5 取組内容	<p>1 ポッチャの紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パラリンピックの種目であるポッチャの起源、パラリンピック種目、採用の歴史、日本代表の戦績等について、配布資料を基に説明した。ポッチャを経験した生徒はいるが、パラリンピックでの日本選手の活躍について知らせることができた。 <p>2 ルール、競技方法の説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本事業は、クラスマッチ形式で実施したため、クラスの生徒の人数に合わせてボールの数を調整する等、独自のルールを設定した。 <p>3 クラスマッチ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6クラスの総当たりのリーグ戦で試合を実施した。体育館で2会場、玄関ホールで1会場設置して開催した。 ・生徒は進行状況を見極め、投げるコースや強さなどアドバイスを送ったり、相談したりする姿が見られた。



	
<p>6 主な成果</p>	<p>パラリンピックの種目である「ボッチャ」の歴史を知り、体験できたことでパラリンピック及びボッチャを身近に感じ、関心を高めることができた。生徒はルールを理解しながら、クラスメートと投げるコースや強さなどについて言葉をかけあう様子が見られた。パラリンピックの種目に触れるとともに、級友との親交を深められたことで楽しい時間を過ごすことができた。</p>
<p>7 実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>工夫した点は、クラスマッチとして実施したので、ルールを変更してクラスの人数に合わせて投球数を設定したことである。最大 10 人で競技できるようにボッチャを準備し、対戦相手の数に合わせて投球の調整をした。2 回投球する生徒の決定や投球順など、生徒が話し合い場面の設定ができたことはよかった点だった。</p>
<p>8 主な課題等</p>	<p>課題としては、用具の準備である。本事業で 2 セット購入することはできたが、大人数で実施する場合はボッチャの数が不足するので、地域の団体から借用することになった。今後も継続して行っていくためには、借用できる団体や機関と連携をとり、計画的な実施を検討する必要がある。</p>
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<p>今後の予定としては、選択制の授業でボッチャを取り入れ、継続的に経験を積み、その後クラスマッチに等を実施することにより、技能の向上と関心を高めることができると考える。将来的には、学年行事のみでなく、学年を超えた交流事業にできると学校全体として効果が期待できる。</p>